

# 環境教育論

環境共生型の地域社会

日時：平成21年11月22日（日） 10:00～15:00

講師：千頭 聡（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）

## 概況



環境共生型の地域社会をめざして

### 1. 21世紀は環境の世紀ともいわれるが…

21世紀は、急激な人口増加が予想されるため、「飢餓の世紀」もしくは「水の世紀」ともいわれる。地球温暖化の影響は、なかなか実感が持てず危機感が生まれませんが、森林に目に見える影響が出てしまった頃にはすでに手遅れである。

### 2. めざすべき社会の姿

持続可能な社会、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指していく。「低炭素社会」とは、二酸化炭素の排出量が少ない産業・生活システムを構築した社会をいう。

また、持続可能な社会のための4つのE要素とは、Environment（環境）、Education（教育）、Economy（経済）、Equity（公正）。例えば Environment（環境）について、ある空間（都市や隣接する森林など）に住んでいるならば、その空間内における循環（循環構造）を内包した地域づくりを目指すことが、持続可能な社会の実現へとつながる。

### 3. 環境教育からESDへ

教育とは、「教える」のではなく「引き出す」ことである。また、学びには多様な形—フォーマル（学校）、ノンフォーマル（地域社会）、インフォーマル（家庭）—が存在し、環境教育において、これらが連携することが重要である。特に、子どもにとって、親がす

ることを見ることは非常に影響力がある。

ESDとは、持続可能な社会をつくるための教育であり、一人ひとりが持続可能な社会へのさまざまな課題に向き合い、行動することを目指すものである。

#### 4. 協働型の環境まちづくりへ

「協働」において注意すべきは、協働するもの同士の価値観が同じではないという点である。しかし、違いや多様さを認識した上で、どこかに接点を探し出し、そこから活動していかなければいけない。

#### 5. いくつかの試み

愛知県は、県民一人ひとりが環境に配慮し行動できる能力を身につけるために必要な環境学習推進方針を示している。

なごや環境大学は、環境首都なごやを目指す人の輪づくりを目指し、市民・企業・大学・行政などが、それぞれの知識・経験・問題意識を「持ち寄り」、「持ち帰り」することで市民が行動するきっかけを提供している。

#### 6. これからどうしますか？

ワークショップ